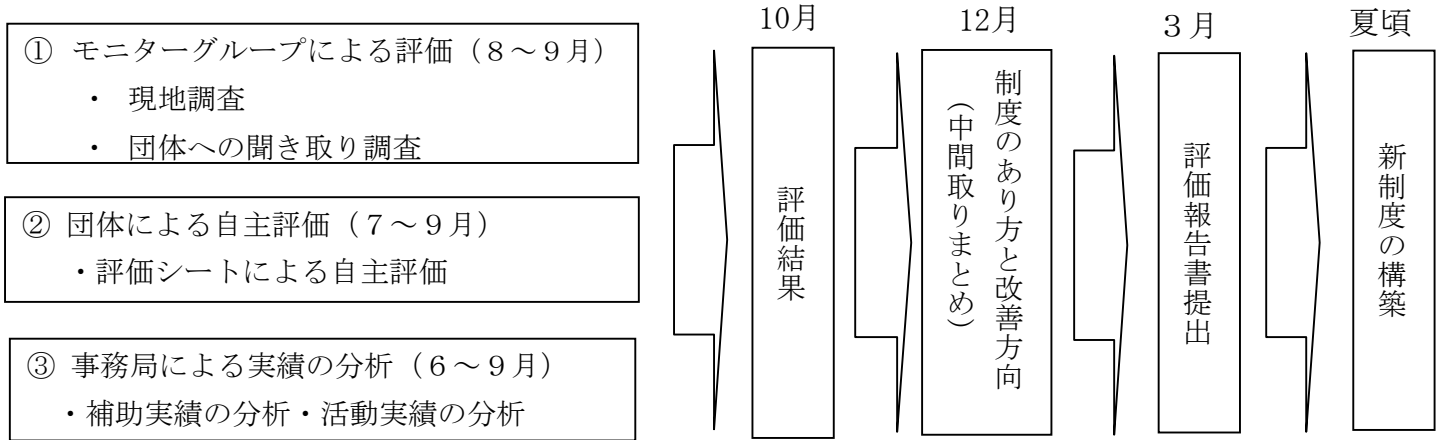


1 評価の目的

団体の活動を通じた制度評価を行い、制度のあり方の検討を行う。

2 評価の流れ



3 市民事業等支援制度評価スケジュール

年度	月	委員会開催予定	会議内容等
22	4	○第19回専門委員会（19日）	活動方針、評価方法検討
	5	○第20回専門委員会	評価方法の検討
	6		
	7	○第21回専門委員会	評価方法の確定
	8		
	9		
	10	○第22回専門委員会	評価結果を踏まえた制度のあり方と改善方向の議論着手（財政面以外の制度のあり方についても検討）
	11	○第23回専門委員会	市民事業補助金中間報告会にて議論
	12	○第24回専門委員会	制度のあり方と改善方向（中間取りまとめ）
	1		
	2		
	3	○県民会議	評価報告書提出
23	4		評価結果を踏まえた制度のあり方の検討

①モニターグループによる評価（委員、モニターチーム）

②団体による自主評価

③実績分析（事務局）

評価結果

## 4 評価の視点と評価項目

### (1) 評価の視点

- ・ 活動の結果が水源環境の保全・再生につながっているか。
- ・ 活動が継続的に広がっているか。
- ・ 団体の自立につながっているか。

### (2) 評価項目及び評価のポイント

評価項目	評価のポイント	特別対策事業	普及啓発・教育事業	調査研究事業
計画どおり適切に実施されたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画どおりの方法・スケジュールで事業が行われたか</li> <li>・ 適切に予算執行がなされているか</li> </ul>	○	○	○
発展性・波及性があるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者数及び他地域からの参加者が増加したか</li> <li>・ 活動内容に広がりが見られるか</li> </ul>	○	○	○
長期にわたり継続して実施が可能であるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体の自立が図られているか（自己資金の確保、会員数の増加など）</li> <li>・ 中長期的な活動計画があるか</li> <li>・ 活動フィールドが安定的に確保出来ているか</li> </ul>	○	○	○
水源環境の保全・再生に高い効果が見込まれるか	<p>〈森林の保全・再生事業（間伐材の搬出事業を含む）〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下層植生の生育環境が改善されているか（植被率、種類など）</li> <li>・ 土壌保全対策が適正になされているか（雨裂、侵食の有無など）</li> <li>・ 森林の状態（林相）が良好であるか（樹冠のうっ閉度、階層構造など）</li> <li>・ 過度な整備等が行われていないか（つる切り、除伐、植栽 など）</li> <li>・ 間伐材が有効に活用されているか</li> <li>・ その他（目標林形の設定、整備計画の有無など）</li> </ul> <p>〈河川・水路事業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親しみやすい河川となっているか</li> <li>・ 景観に配慮した事業となっているか</li> <li>・ 水辺の生態系に配慮した事業となっているか</li> </ul>	○		
水源環境の保全・再生の必要性を効果的に伝える事業であるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水源環境の保全・再生の必要性を伝えるプログラム構成になっているか</li> <li>・ きちんとした広報が行われ、多くの人への広がりが見られたか。</li> </ul>		○	
問題や課題の解決に向けた有効な対策に寄与する事業であるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水源環境の保全・再生を図るうえでの基礎データとして有用性があるか</li> <li>・ 調査研究結果が有効に活用されているか</li> </ul>			○

※ 評価のポイントに基づき、3～5段階で評価を行うことを想定

## 5 モニターグループによる評価について

### (1) ねらい

市民事業支援制度を評価する方法のひとつとして、活動現場をモニターし、①活動の結果が水源環境の保全につながっているか②活動が継続的に広がっているか③団体の自立につながっているかの視点から評価する。

### (2) 実施方法

- 事業ごとに評価シートを作成し、現場をモニターする。
- 事業モニターチーム(14名)及び市民事業専門委員会(5名)をメンバーとする。
- 1回当たり1～2団体を対象とし、計6回モニターを実施する。  
(計6～12団体)
- グループ編成、対象団体等については、別途、事業モニターチーム、事務局と調整の上、決定する。

### (3) 時期等

実施時期	回数	備 考
22年8～9月	6	計6回実施(計6～12団体)

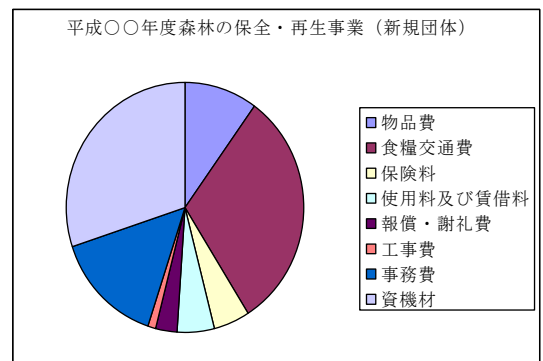
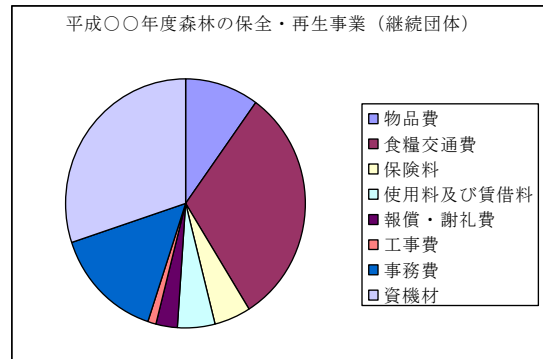
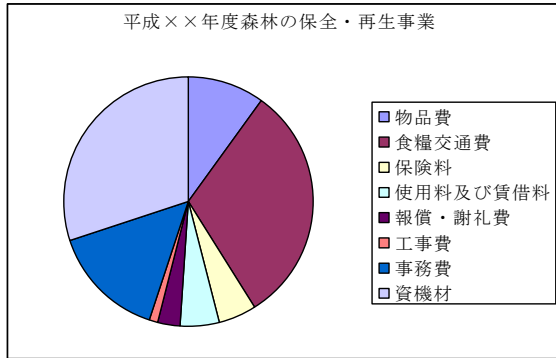
### (4) グループ編成

- ・ 1回あたり3～6名をメンバーとする。
- ・ 最低1名は専門委員会委員とする。
- ・ 専門委員会委員は必ず2回以上モニターに参加する。
- ・ 他の県民会議委員の参加も可とする。

## 6 事務局による分析イメージ

### (1) 補助実績の分析

補助金総額における各費用の割合



### (2) 活動実績の分析

補助金交付前と後での活動実績の変化を分析

		平成〇〇年度 (補助前)	平成××年度	平成△△年度
森林の保全・再生事業 (継続団体)	整備面積	0.5ha (10 団体平均)	1.0ha (11 団体平均)	1.2ha (12 団体平均)
	活動日数	20 日	30 日	35 日
	参加者・構成	50 名	100 名	120 名
	会員数・構成	20 名	40 名	45 人
	団体収入	60 万円	100 万円	110 万円

		平成〇〇年度	平成××年度 (補助前)	平成△△年度
森林の保全・再生事業 (××年度新規団体)	整備面積	/	0.5ha (10 団体平均)	1.0ha (10 団体平均)
	活動日数		20 日	30 日
	参加者・構成		50 名・	100 名・
	会員数・構成		20 名・	40 名・
	団体収入		60 万円	100 万円